第20回大会講演要旨

宇宙津木和夫：クマミシとコケ類の関係（1）コケの生育土壌のpHとクマミシ

クマミシは緩適動物として一門をなしており、解で歩く動物では最も原始的なものといえる。世界に広く分布しており、淡水性、海水性および陸上にいたるところに生息している。陸上で特にセンダイ類や地衣類（以下コケ類とよぶ）に多く見いだされる。1983年以降、日本の各地でコケを採集して、その中に棲むクマミシの調査をすすめてきた。現在までに得られた資料から、pHの低い土壌に生えるコケにはクマミシの生息が少ない傾向がみられる。コケの生育が土壌pHと関連があるのと同様に、クマミシの生息もコケおよび土壌の条件に関係しているものと考えられる。今回はクマミシを紹介するとともに、この動物とコケとの関係について報告した。

（162 東京都新宿区河田町8-1 東京女子医科大学）

田邊光夫・本郷順子・平岡正三郎：コケ植物中の金属の多元素同時定量

植物試料中の金属分析法の公定法は少なく、コケ植物の分析に関しては、分析者が新たに分析法を開発しなければならないのが現状である。そこで新たに植物試料の解析方法を開発し、コケ植物中の金属（Al, Ca, Mg, Fe, Mn, Ba, Cu, Ni, Pb, Sr, Zn, Cd）についてICP発光分光法（ICP-AES）を用いて定量を逐した。試料は乾燥灰化し、マイクロウェーブ方式ダイジェスターにより密閉型混酸分解（HCl-HNO₃-HF）を行う。分解溶液は、蒸発乾固した後、1 mol dm⁻³-HClで溶解し、4 w/v％H₂BO₃を加え、50 cm³メスフラスコで定容とした。この手法を用いて、各種植物標準試料の分析を行ったところ、それぞれ満足のいく結果を得た。

（215 神奈川県川崎市麻生区細山8-8 財団法人平岡環境科学研究所）